

血液をサラサラにするお薬を飲んでいるかたの頭部外傷 に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2019年12月9日～2022年3月31日

〔研究課題〕

抗血栓薬を服用している頭部外傷症例の疫学研究

〔研究目的〕

高齢者の方で、血液をサラサラにするお薬(抗血栓薬)を内服している方が、頭部に怪我をした場合にどのような不利益があるのかを明らかにします。

〔研究意義〕

日本社会の高齢化により頭部外傷患者も高齢化が進んでいます。近年では高齢者の抗血栓薬の服用率の上昇が問題視されています。なぜならば、抗血栓薬の服用が高齢者頭部外傷の転帰を悪くしている可能性があるからです。このような患者さんの入院時の状態や治療内容に関する情報が、各参加施設からwebアプリを用いてデータベースへ送信されます。各施設から提供された情報を用い、患者さんの状態や治療法によって、患者さんの転帰がどのように異なるかを解析します。この度の調査にて、抗血栓薬の中和による治療効果を明らかにし高齢者頭部外傷の転帰改善に役立てたいと考えています。また、静注用プロトロンビン複合体製剤(ケイセントラ静注用)を投与した患者さんにおいて、薬剤の副作用等が発生した場合は製造販売元であるCSLベーリング株式会社に対して情報提供を行います。

〔対象・研究方法〕

2019年12月1日～2020年11月30日の間に当院で頭部外傷による治療を受けられた高齢者(受傷時65歳以上)の患者さんを対象とします。年齢・性別・受傷機転・診断・抗血栓薬の服用状況・抗血栓薬の中和状況・治療内容・患者転帰の調査です。特別な投薬などは行わない、観察研究です。

〔研究機関名〕

研究組織 日本脳神経外傷学会

研究代表者: 山口大学大学院医学系研究科脳神経外科学講座 鈴木 倫保

研究参加施設と研究責任者

山口大学 鈴木倫保

日本医科大学 横堀将司

済生会滋賀県病院 塩見直人

千葉県救急医療センター 宮田昭宏

香川大学 河北賢哉

聖マリアンナ医科大学 大塩恒太郎

日本大学 前田剛

仙台市立病院 刈部博

帝京大学 大貫隆広

岩手医科大学 小守林靖一

熊本赤十字病院 長谷川秀

東京医科歯科大学 稲次基希

加古川医療センター 相原英夫

土浦協同病院 廣田晋

国立病院機構災害医療センター 八ツ繁寛

〔個人情報取り扱い〕

結果については、学会や論文等で公表しますが、個人が特定されることはありません。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者： 大貫 隆広(助手)

研究分担者： 坂本 哲也(主任教授) 朝見 正宏(助手) 大山 裕太(助手)

所属： 帝京大学医学部救急医学講座, 脳神経外科学講座

住所： TEL:03(3964)121 (代表)〔内線 33129 〕